

公益財団法人 放送文化基金
平成25年度 事業計画
(自 平成25. 4. 1～至 26. 3. 31)

平成25年度は公益財団法人に移行して3年目となる。その事業計画は昨年と同様に「1 助成事業、2 表彰事業、3 支援活動事業」の3本の柱に沿って取り組むものとする。また、基金は平成26年2月1日に設立40周年を迎えるが、その周年記念事業の一部を前倒しで実施する。

1 助成事業

公募により、放送に関する技術の研究開発、放送に関する人文社会、文化的な調査・研究や文化事業に対し、助成を行う。

このほか、3月の「助成金贈呈式」では、近年、助成したプロジェクトの中から、視聴者の関心の高いテーマや時宜を得たテーマをとりあげ、研究報告会を実施する。

なお、助成対象を決定したときは、その対象者とテーマを記者発表し、同時にホームページで公表する。その後得られた開発や研究の成果については、ホームページ上でPDF等により、広く紹介する。

予 算 6, 064万円

2 表彰事業

視聴者に感銘を与えた優れた番組と、放送文化および放送技術に関する著しい貢献に対し表彰を行う。

予 算 2, 940万円

(1) 放送文化基金賞

全国の民放、NHK、番組制作会社を対象に、広く応募を募り、番組部門と個人・グループ部門の2部門を表彰する。

また、「放送文化基金賞」を決定したときは、その受賞作品、受賞者、選考理由等を記者発表し、同時にホームページで公表する。

○ 番組部門

前年度に放送されたテレビドキュメンタリー、テレビドラマ、テレビエンターテインメント、ラジオの4分野の番組を対象とする。

番組の表彰（本賞、優秀賞、各番組賞）計 15 本以内
個別分野賞（演技賞、企画賞、演出賞等）計 5 本以内

○ 個人・グループ 部門

つぎの2分野で、おもに前年度に顕著な業績をあげた個人またはグループを対象とする。

放送文化・・・放送界に新風を吹き込み、新生面を開拓した個人またはグループ 3件以内

放送技術・・・技術の開発や放送現場での工夫・考案で効果をあげた個人またはグループ 3件以内

(2) 他の賞への参加

国際コンクールである「ABU賞」（主催 アジア太平洋放送連合）と「日本賞」（主催 NHK）に、新たに今年度から「創作テレビ・ラジオドラマ大賞」（主催 日本放送作家協会）へ参加、優れた番組や企画、脚本にそれぞれ賞金を贈呈する。

◎ABU賞・・・優れた番組の表彰（ABU賞全体へのスポンサーとして）

◎日本賞・・・教育に役立つテレビ番組の優れた企画の表彰

◎創作テレビ・ラジオドラマ大賞・・・優れた創作脚本の表彰

3 支援活動事業（制作者フォーラム）

放送に携わる若手制作者の人材育成を支援する施策として、全国を4地区に分け、各地区の制作者が組織の枠を越えて交流を図る「制作者フォーラム」を全国4都市（盛岡、長野、松山、福岡の各市）で開催の予定。

このほか、4地区での開催のあと全国の制作者を対象に、近年、話題となった番組の視聴やその制作者を交えての意見交換、経験豊かな制作者による講演などを盛り込んだ「全国制作者フォーラム」を東京で開催する予定。

予 算 930万円

4 設立40周年記念事業の前倒し実施

40周年記念事業は、平成26年度を中心に展開することとしているが、以下の事項については今年度から前倒しで実施する。

予 算 700万円

- (1) 若手研究者への助成奨励
放送研究の発展に向けて、来年度から3年計画で予定している「若手研究者への助成奨励」のトライアルとして、助成金の枠を確保する。(予算 200 万円)
- (2) 研究報告会（拡大版）の開催
26年3月に開催する研究報告会を、40周年記念事業と位置付け、規模を拡大して実施する。
- (3) 放送文化基金報「40周年記念特集号」の刊行準備
平成26年度に刊行する第80・81号（4・9月刊行）については40周年記念特集号となるため、これに先立ち、30周年以降の10年間にわたる資料の取りまとめや編集作業を含め、記念特集号刊行の準備を進める。
- (4) 「事業」システムのWeb化による再構築
助成、放送文化基金賞、名簿管理 については、そのシステムをWeb化により再構築することとし、その設計に取りかかる。
25年9月に受け付ける助成申請から順次、システムの運用を開始する予定。(予算 400 万円)

5 広 報

基金の1年間の事業計画やその活動状況を広く紹介するため、広報誌（放送文化基金報「HBF」）第78号（春号）を4月、第79号（秋号）を9月に刊行し、関係先等へ広く配布する。

各号の刊行に先立ち、記事内容の一部はホームページでも公開して、最新情報の提供を行う。

予 算 355万円